

# 介護老人保健施設オアシス21

**症例概要** 利用者氏名：C・I様 女性 100代前半 要介護度3  
病名：頸椎症性神経根症

施設最高齢（100代前半）のCさん。2020年の東京オリンピックにて、札幌開催されるマラソン大会にボランティアとして参加することを生きがいにしていましたが、新型コロナウイルスの影響でオリンピック延期。「来年は生きていないからダメかも」と落ち込み、生活全体が消極的になり、ADLも低下。何とか元気になってもらおうとご家族と相談しサプライズ誕生会を企画。面会と誕生日プレゼントを準備しました。その後は「来年も生きてオリンピックに参加するよ」と再度生きがいを持たれた症例。

## 内 容

経過：平成27年11月、脱水のため入院となり、症状改善も介護困難にて同年12月にオアシス入所。入退所を繰り返しながらオアシスには4度にわたりリハビリ目的で入所していただいています。

オアシスで最高齢となられるCさんは、100歳の敬老会で「次のオリンピックを見ること」を目標にされるほど、東京オリンピック開催を大変楽しみにされていました。しかも、今回のマラソンは、札幌開催となり、社会参加を目指しているオアシスでは、Cさんのボランティア参加を促し、これを生きがいにリハビリを頑張っていました。

ところが、新型コロナウイルスの大流行で東京オリンピックが延期となり、更には開催自体が危ぶまれる状況になったことで、すっかりと生きがいをなくし、「来年はもう生きていないと思うから、もうダメかも」とリハビリや行事参加にも消極的になられ、体調も悪化、ADLも低下し、今まで車椅子の移乗は自立でしたが、2人介助レベルまで落ちてしまわれました。

そのなか、何とか元気になってもらおうと、サプライズ誕生会を企画。ご家族と打ち合わせを行い、娘さんやお孫さんなど皆さまに集合していただき、面会とリハビリシューズのプレゼントを準備。ご家族の突然の来所で、はじめはビックリされていましたが、徐々に表情も笑顔になり「みんなありがとう。もう少し頑張るよ。来年も生きていてオリンピックに出るよ」と新たな生きがいが出来ました。その後の生活は一転し、リハビリも意欲的になり、車椅子移乗も2人介助から1人介助になっています。

利用者さんの生きがいづくりを家族と考えること、オリンピックをきっかけに社会参加を狙うことで生きる希望を見出すことができた症例としてキラキラ介護賞に推薦いたします。